

# まことと会便り

2019/5

みなさまいかがお過ごしでしょうか。

先日広島別院の輪番に就任された榮師からご話いただく機会がありました。別院の輪番というお役は京都の本願寺より派遣されて全国各地の別院へ異動していく転勤族です。初めて輪番のお役をいただいて家族と離れて単身赴任した四月半ばの雨の夜、急に激しい寂しさに襲われたそうです。止めどなく涙が溢れ、沈む気持ちの中でふと思いついて本堂へ行き、阿弥陀さまの前に座り込み心の中でお話ししたのだそうです。「涙が止まらないのです」「どうされましたか」「たまらなく寂しいのです」・・・そんな声なき会話をしているうちに少しずつ気持ちは落ち着いていったそうです。阿弥陀様はいつでもどこでも私に寄り添って下さっている、そう感じたそうです。この経験は輪番さんの中で特別な経験となりました。そして、こういった経験を家族や周りの人びとに話すことが教えを伝えていくということなのだど気付いたそうです。

ご法義を伝えるということは、特別な難しい話をする事柄ではなく、私たちが自分の経験や感じたことを言葉にして家族に話す普段の会話の中にこそあるものなのです。

## 行事予定



五月 二十八日 光圓寺 春季永代経法要

二十九日 講師 長尾量之師

七月 十日 まこと会 夏法座

十月 二十三日 まこと会 念仏奉仕

十月 三十日 報恩講・秋季永代経法要

三十一日 講師 香川孝志師

\*今年のお齊は南観音中・西地区の方々

ご接待くださいます。

地区の皆さまよろしくお願ひいたします

## 光圓寺春季永代経法要

五月二十八日(火)二十九日(水)

両日とも午後一時半より

講師 長尾量之師

本願寺派布教使

黒瀬組 浄願寺 (東広島市黒瀬町)

長尾師は六年ぶり三回目の「登壇」になります。前回の「ご法話」では悪人正機説に触れられました。どのような悪人でも救われるなら悪人のままでよいということではなく、時と場合によってはいつでも悪人になってしまう危うい私たちでも救っていただける有り難さを思い、感謝し、だからこそ慎みを持って人生を歩んでいかなければならないというお勧めなのだということ。煩惱を完全に消し去ることのできない人間ではありませんが、慎み、感謝しながら歩いていく姿こそが美しいのだとお示しいただきました。

## 庫裡屋根及び外壁修繕工事が終了しました

昨年七月の豪雨災害時より雨漏りしておりました庫裡の屋根の修繕工事が完了しました。豪雨の日は雨が強すぎて雨樋の容量オーバーなだけかと思つていましたが、その後には弱い雨でも雨漏りが続くので点検して頂いたところ、瓦屋根の周辺を葺いている銅板が穴だらけになつている事が分かりました。瓦の釉薬が近年の酸性雨で溶け出し、化学反応を起こして銅板に穴をあけたということでした。加えて、建物自体も築三十年を越えており、外壁の防水も限界にきていましたのでこの機会に外壁全体も塗り直すことにいたしました。

昨年七月に発注したものの、今年三月にやっと着工となりました。

お彼岸のお墓参りの時には皆さまにご不便をおかけしたことと申します。ご協力ありがとうございました。

建物の全体の色が変わりました。

いかがでしょうか。



## 春爛漫コンサートありがとうございました

四月二十日（土）午後二時より、かねてよりご案内しておりました光圓寺春爛漫コンサートを本堂にて開催いたしました。

おかげさまで当日は爽やかな好天に恵まれて、本堂いっぱいの方にお越しいただきました。ありがとうございました。

ピアノの木原宏寿さんが光圓寺の門徒というご縁で、ヴァイオリンの白井朝香さんと共に素晴らしい音色を響かせてくださいました。

本堂のピアノは、もう十五年以上もきちんと弾かれることなく、ほぼ置物と化しておりましたが、このたびのご縁できちんと調律して素晴らしい弾き手に鳴らしていただき、息を吹き返したようでした。

小さなアップライトピアノですが、本堂中に響くのびのある音色は豊に膨らみ、聞く私たちは感心したり、感動したり。心の栄養となる豊かな時間を過ごさせていただきました。

